

第6期坂井市行政改革推進協議会

第2回 議事録

平成28年8月29日

会議	第2回 坂井市行政改革推進協議会		記録	承認
日時	平成28年8月29日(月) 15:00-16:47		事務局	行政経営課
場所	坂井市役所 301会議室		浦	杉田課長
出席委員	井上会長、池上委員、北島委員、栗原委員、関委員、中川委員、橋本委員、細川委員、松井委員、松江委員、盛政委員			
欠席委員	なし			
事務局	副市長、総務部長、財務部長、総務部次長兼総務課長、財務部次長兼財政課長 行政経営課長、同課参事、西出主任、木下主任			
資料	資料1 行財政改革に関する職員アンケート調査結果について(カラー印刷に差し替え) 資料2 第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について 資料3 第3次行政改革大綱基本項目(案)について 追加資料 行政改革効果額集計表			
I 開会	開会	(行政経営課長)	時間となりましたので、ただいまより、第2回の坂井市行政改革推進協議会を開催させていただきます。	
	副市長あいさつ	(行政経営課長)	はじめに、北川副市長よりごあいさつ申し上げます。	
		(副市長)	皆さんこんにちは。ようやく朝夕涼しく感じる季節となりましたが、本日は委員の皆様にはお忙しいところご出席をいただきましてありがとうございます。 また、日頃より、いろいろと市に対しましてご支援とご協力をいただいておりますことに対しまして、併せて厚くお礼を申し上げます。 さて、今回は2回目の会議ということでございます。前回は坂井市の現状や、これまでの行政改革の取組状況等についてご説明をさせていただきました。坂井市も合併して10年ということで、行政改革も第1次、第2次とありまして、今年度は2次の最終年度ということでございます。 この間、職員の定数適正化、指定管理制度の導入、また保育園の民営化などに積極的に取り組み、一定の財政効果を得ていると考えている所でございます。 今回の第3次行政改革大綱の策定でございますけれども、大きな課題としては、これは坂井市だけではございませんけれども、人口減少や少子高齢化、公共施設の老朽化への今後の対応、また財政面では合併特例債、また普通交付税の優遇措置があるわけでございますが、平成32年でこれらが終了するというところで、財政的な課題があるわけでございます。 本日から、第3次行政改革大綱の策定に向けて、これらの課題を整理していただきまして、具体的な協議に入っていきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。	
	前回欠席委員の紹介	(行政経営課長)	ありがとうございました。 会議に入ります前に、前回第1回の会議にご都合によりご欠席された委員さんのご紹介をさせていただきます。 池上委員、関委員、盛政委員 紹介 それでは、ここから会議に入ります。井上会長の進行で進めていただきます。よろしくお願いいたします。	
(井上会長)		皆さんこんにちは。お忙しいところ、第2回の行政改革推進協議会にご出席いただきましてありがとうございます。 初回の前回は6月16日でしたので、約2か月ほど時間が空まして、その当時の議論の中身とか資料の内容なども多少うろ覚えの部分も出ていかなと思いますけれども、今日はその間調査いただいたことなどもあって、次の行政改革大綱に向けて貴重な資料もいただいておりますので、それを中心に議論を進めていただいて、前回の内容についても少しづつ思いだしていただけたらと思います。 どうぞよろしくお願いいたします。		
II 会議	差し替え・追加資料説明	(井上会長)	それでは、お手元に資料が置いてあるかと思っております。事前の資料と同じものも含まれておりますけど、若干修正があるということでございますので、それについてご説明いたします。	

差し替え・追加資料説明	(行政経営課長)	<p>事前に資料を配布させていただきましたけれども、職員アンケートの資料について、モノクロでグラフの区切りが分からなかったということで今回カラー刷りに改めさせていただきました。</p> <p>それと、申し訳ありませんが1点修正箇所がございます、14ページの設問10の凡例テキストの所が間違っておりましたので、カラーの方は修正されておりますので、よろしくお願いたします。</p>
	(行政経営課長)	<p>それから、1点追加の資料がございます。前回の会議で橋本委員様からご質問のあった財政効果額の積算ということで、A4の資料をお手元に置かせていただきました。第1次と第2次の集計ということで、下段の方が第2次の24,25,26の3年間に積み上げました12億円の内訳でございます。こういう事業でこれだけの財政効果があったという資料でございます。よろしくお願いたします。</p>
II 会議 1. 行財政改革に関する職員アンケート調査結果について	(井上会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事の方を進めて参りたいと思います。議題の1、行財政改革に関する職員アンケート調査結果ということで、こちらの資料の内容につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
	(行政経営課参事)	【資料1】行財政改革に関する職員アンケート調査結果について説明
	(井上会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで質疑応答ということになるんですけども、その前にこの結果について、事務局の行政経営課の方は、どういう風な感想をお持ちか、率直なところをお話しただけないかと。</p> <p>というのは、ここで出てきた職員の意識の実態というのが、予想していた部分もあればそうでなかった部分もあると思うし、これからの行政改革に非常に大きな部分を占めると思います。当然そこには市民の意見も入ってくるわけですけども、まず市としてどういう所をどういう風に受け止めているかという所を最初にお聞かせいただいで、その後皆さんからお一方づつご意見をいただきたいと思っておりますので、まず事務局の方からお願いたします。</p>
	(行政経営課参事)	<p>このアンケートについては職員が行政改革に対しどのような認識を持っているかを確認することが目的だったのですが、会長がおっしゃったように予想通りというところはあるんですけど、認識という面ではやはり弱いところはあります。</p> <p>ただ資料の14ページ、行革に今まで以上に力を入れていくべきかという設問に対しては8割以上の職員がそう思うという回答がありますので、職員としては行革の必要性については十分認識をしている中で、最初の方にありますようにやはり業務に追われてついていけないというか、行革に対して疲れているという部分が見えてきています。やらなければいけないという思いがある中で、意識づけといいますか、そういったところにつなげて行けるように、今回の大綱の内容とか実施計画を組み立てていく必要があるというように、今回のアンケート結果から認識したところであります。</p>
	(井上会長)	<p>ありがとうございます。</p> <p>若手職員の方が意識がないと言ったら失礼ですけど、そこら辺に関してはどのようにお考えでしょうか。</p>
	(行政経営課参事)	<p>それにつきましては、正直言います私ども行革担当部署の職員に対するPRというか、啓発といいますか、そういったところの不足なのかなという面で、反省するところです。</p>
	(井上会長)	<p>啓発という言葉はいただきましたけれども、ちょうど私も自由意見を読んでいまして、この際、委員の皆さんに是非とも伝えたいんだという思いがひしひしと伝わってきて、職員の皆さんも我々に何か啓発しようとしている感じがしまして、お互い双方向のコミュニケーションをしっかり取らないと行革というのは進まないのかなということを感じておりますので、ここで皆様からこのアンケート調査をお読みいただいて、気になった点とか全体の感想などをお一言づついただきたいと存じますが、どなたか最初に立候補していただける方がいらっしゃればお願したいんですけども。</p> <p>いらっしゃらなければ、名簿の順番でよろしいですか。すいませんが一言お願いたします。</p>

II 会議	1. 行財政改革に関する職員アンケート調査結果について	(委員)	最後の主な意見という所を読ませていただいたんですけど、多分意識をしておられる方は、職員の意識に関すること、9番目の所に、今一度坂井市の現状と将来分析についてきちんと教えてほしいという意見があったんですけど、それと横の連携、各部署との意見交換会などと、前向きにいろいろなことを学んでいくというか、考えていこうというのがあるって、すごく期待できるのかなと思うんですけど。 でも、初めの方に、坂井市も合併して今後のことを考えるのに、公共施設の見直しを本気でやらないといけないというのを読むと、今さらというか、公共施設マネジメント白書が公表されてから何年もたっているのに、まだこの程度の意識なのかなという気もしました。
		(井上会長)	ありがとうございました。次お願いします。
		(委員)	先程ありましたように、若い方から上の方まで行革に関しては認識はしているところ、やはりかなり忙しいのかなと、仕事に追われているのかなという感じもちょっと受けました。 16ページにあるように、やはり削減とか縮小ばかりではこのままいくとモチベーションが上がらないというような意見もありまして、この辺を考えながら、改革そのものは進めて行かなければならないのかなと思ったところなんです。
		(井上会長)	ありがとうございました。続きましていかがでしょうか。
		(委員)	資料を届けていただきまして十分読んだつもりですけど、まず、よくこれだけのことを調べられたなという思いがあります。 それと、今いただいた資料の中で、公民館を拠点としたまちづくりの推進ということについての行政改革の効果というのが割と点数が多いんですけど、まちづくりについては公民館の職員に依存している部分がある、市民自身がしなければいけないことも公民館に依存している部分があるのではないかなという中で、市民のレベルを上げるというか、意識を上げることも大事ではないかと思いました。
		(井上会長)	ありがとうございます。それでは続きましていかがでしょうか。
		(委員)	市役所の中の業務の効率化とか、そういうものが業務の改革という所かと思うんですが、私も会社員として、会社の中も必ず効率を上げるとか、そういうことばかりを普段の業務の中でやっているというのがあります。 坂井市の中においても、普段の業務にプラスして、そういった効率を上げるとか、意識改革をすとかという活動のようなものを具体的にやっていけば、教えていただきたいと思います。
		(井上会長)	もし答えできることがあれば、事務局からお願いします。
		(総務部長)	まず、職員の中での活動といいますと、職員の自主研究グループというものを作って、行革だけではないんですけど、こういうことをすれば坂井市の発展につながるんじゃないかということ、毎年2から3グループ位で1年間、時間外にディスカッションなど研修をして、最終的には発表をするというようなことをやっています。 成果は庁内で実際に取り上げて実施するという場合もありますし、なかなか実現は難しくてできないものもあるんですけど、そういう風なものに合併以来取り組み続けているということも一つかなと思います。
		(委員)	そういうものによって効果が出ている面はかなりあるんですか。
		(総務部長)	やっている職員はもちろん意識は高まりますし、発表を聞いて他の職員も併せて意識を高めているのかなと感じています。
		(委員)	普段の業務の改善活動というか、そういったものはどうですか。よくあるカイゼンとか。
		(総務部長)	業務の改善といいますと、行革の中で事務事業評価というものをしておりまして、これは一本一本の事務事業を職員が毎年目標を立て、評価をして、次年度以降続けていくのかいかなのかも含めて判断していますので、おっしゃるようなものにあたるのかと思います。
(委員)	ありがとうございます。		

II 会議	1. 行財政改革に関する職員アンケート調査結果について	(井上会長)	ありがとうございました。それでは続きましてお願いします。
		(委員)	<p>2、3年前に区長をさせていただいていた時に、市の方にいろいろ要望事項とかお願いごとをすると、すごくテキパキと本当に間髪を入れず、極端なことを言うと朝言ったら夕方までにはきちんとしてたような事例もあって、坂井市の職員さんってすごいなと思っていました。このように行政サービスと言ったら素晴らしいものがあると思うんです。</p> <p>ただ、行政サービスと行財政改革って、相反すると言ったらおかしいんですけどちょっとそういう部分もあって、行政改革を進めると行政サービスがカットされたりということが出てくると思うので、そこら辺のバランスが非常に難しいのかなと思うんですが。</p> <p>あと、市役所とお付き合いして一番感じたのが異動が非常に多い。定期異動って仕方がないんだと思うんですけど、定期異動があった直後の何か月かはやはりどこの部署に問い合わせをしてもなかなか前任者ほどはスムーズに事が運ばないということを経験してます。そこら辺を異動の仕方でもう少し引継なんかをうまくやっていると、行政改革もうまくいくんじゃないかと思います。</p> <p>それと、私も民間で45年ほどおりましたので、常に自分の仕事を改善していきなさい、改革していきなさいということは、四六時中言われることなんですけど、そういった民間のノウハウを行政に取り入れてというのも。そうスムーズにいくものではないと思いますが。</p> <p>担当者の声が上司に反映されていって、それが行財政改革に結び付くような、現場の声を吸い上げるような仕組みがもっとあったらいいなという風に感じています。</p>
		(井上会長)	ありがとうございました。それでは続きましてお願いします。
		(委員)	<p>アンケート調査全般を通してですね、若い人の行革に対する意識が低いというか、そういう傾向は大体そんな所かとは思いますが、このアンケートの中で例えば5ページのコスト削減及び効率性とか、7ページの目標に対する意識、あといくつかあるんですけども、部長、次長、課長級という管理職の立場にある人が意識することがないとか、何か低調な回答をしている部分があって、そういう所は逆に管理する立場にある人からしっかり意識改革をしてもらわなくてはいけないというか、そういう風に3つか4つの設問に関して思った次第です。</p> <p>やはりトップに立つ、管理すべき人が、しっかりと行革に対する意識を持ってもらわなくてはならないと思います。</p>
		(井上会長)	ありがとうございました。それでは続きましてお願いします。
		(委員)	<p>まち協のお世話をしている関係で、どうしても13ページの、公民館を拠点としたまちづくりの推進ということで、高い評価が出ていることはよいと感じましたが、ますますまち協に対しての依存が増えてくるのかなと。それに対応する我々の会員の増強といいますか、メンバーの見込みが立たないと言いますか、高齢化していく中で若い人がなかなか入っていただけない、そういうジレンマが僕らにあるんです。もっともっと、まちづくりの推進としてひとづくり、ひとが皆こぞってまちづくりに対しての協力をしなければいかんという働きかけを行政の方でしていただけないかと感じました。</p> <p>それと、19ページの職員の意識に関することの3番目の一番下、横の連携、他部署との意見交換会などを行ってはいかがかということ、本当に職員さんが思っている以上に、我々が職員さんからお答えをいただくときに、中身が多少ずれてくるので、統一された答えがほしいなと感じるときが時々あります。そんなところも改善をお願いしたいと思います。</p>
		(井上会長)	ありがとうございます。続きましていかがでしょうか。
		(委員)	行財政改革という絞ったアンケートでございますし、見せていただいて、上とか下じゃないんですけど、特に主任クラス以下の若い方の意見も若干受け止めることができたかなと思います。参考にさせていただきたいと思っています。
		(井上会長)	ありがとうございます。続きましてお願いします。

II 会議	1. 行財政改革に関する職員アンケート調査結果について	(委員)	<p>先程の方もおっしゃっていましたが、アンケートの回答の中で、部長次長級のクラスの方で後ろ向きの回答をしているのが気になったことが一つ。</p> <p>それから、全般的には若手の職員の方の意識が低いということで、結果はそうなんですけど、へえそうなんだという感じで見たんですが、むしろ若手の方が意識が高いのかなと思っていたので。語弊があるかもしれませんが、町時代から長年職員を勤めた方が、公務員の仕事に慣れ親しんでいる感じがあって、ひょっとして意識が薄いかなと思っていたんですけど、むしろ合併を経験した職員の方が意識が高いのかなと、ちょっと考え直したところもありますし、若手職員の中で合併後に入った職員だと、その辺が意識が薄い原因でもあるのかなと、憶測ですけど考えました。</p>
		(井上会長)	ありがとうございました。続きましてお願いします。
		(委員)	皆さんにとっても良いご意見をたくさん出していただいているので、いろいろ問題点や、向上していかなければいけない点もたくさんあると思います。坂井市は規模も大きいので、職員の方も大変だと思いますが、今後ますます、市民もそうですけど、行政の方も頑張っていただきたいと思います。
		(井上会長)	<p>ありがとうございました。皆様からご意見をいただきましたけれども、それぞれのお立場で気になったところを挙げていただきまして、このアンケートは非常に貴重な情報だと思いますので、これからちょくちょくこれを使いながら、議論して行ければと思っています。</p> <p>私個人的には、今勤めている学校が公立の学校なものですから、やはり似たような悩みとあります。なかなか目の前の仕事に追われて効率化を進めていく時間がないというような状況はよく聞いております。それは県立だからではなく、国立の大学でも同じような傾向があるというようなことを聞く機会がありますので、やはり日本全体の行政というのがそのような状況にあるのかなという風に思っています。</p> <p>ただ、やっぱり一つの原因は、職員を減らしたからと言って住民サービスは減らしてなくて、むしろ人件費が浮いた部分でいかに新しいサービスを提供していくかという方にお金が行ってしまいますので、その分仕事は増えちゃうんですね。ですから、人が減って仕事が増えると当然一人当たりの仕事が増えてしまうというようなことで、その分先のことをなかなか考えて行けないと。</p> <p>こういう風なことを考える部署が、事務局をさせていただいている行政経営課なり、予算の査定をされている財政課とかがあるわけなんですけど、そこがやるのが仕事なんだみたいになってしまって、他の職員は結局自分たちは何もやらなくてもいいとは言いませんけども、やらなくても何とかなっているというような状況に陥っているのかなと思います。</p> <p>やはり市役所の運営でも、あらゆる行政というのは全体で運営していくものですし、最前線にある各部局が、自分たちの仕事をどうやって効率化していくのかというのは、自分たちが一番よく知っている部分でありますので、やはりそのための意識を持ってもらう、もちろん意識だけではなくなかなか難しいと思いますので、それを実行することによって自分たちの負担も減っていくという形になることで、行政改革ももっといいものができるのではないかと感じた次第です。</p> <p>このアンケートで得られた課題を踏まえて、次の議題に入りたいと思います。</p>
	(井上会長)	それでは続きまして、議題の2ということで、第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理についてということで、資料について説明をお願いします。	
	(行政経営課参事)	【資料2】第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について説明	
	(井上会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>前回にも前段の資料が出ていたわけなんですけど、より詳しく説明をさせていただいたということでございます。</p> <p>これは、今回の行政改革の骨格を作るための準備ということで、これまでの残された課題でありますとか、今起きている環境の変化でありますとか、そういうものを踏まえて、じゃあ行政はどういうことをすべきなのかということを、項目別に分類をしたというような形になっています。</p>	
	2. 第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について	(井上会長)	それでは続きまして、議題の2ということで、第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理についてということで、資料について説明をお願いします。
		(行政経営課参事)	【資料2】第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について説明
		(井上会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>前回にも前段の資料が出ていたわけなんですけど、より詳しく説明をさせていただいたということでございます。</p> <p>これは、今回の行政改革の骨格を作るための準備ということで、これまでの残された課題でありますとか、今起きている環境の変化でありますとか、そういうものを踏まえて、じゃあ行政はどういうことをすべきなのかということを、項目別に分類をしたというような形になっています。</p>

II 会議	2. 第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について	(井上会長)	<p>具体的にどのようなことをするのかということは、この後の資料の3に出てきますので、それはまたあとでご意見をいただきたいと思いますので、まずは全体的に項目の分け方、これが行政改革大綱の骨組みになりますので、特にこの部分に関して、今4つに分かれておりますが、ちょっと少ないんじゃないかとか、こういうことも入れたほうがいいんじゃないかとか、こういう表現はどうですかというようなご提案など、もしありましたらいただければと思っております。</p> <p>これはお一人お一人ということはいたしませんけど、もし何かございましたらご意見いただければと思っております。</p> <p>一つ、私から質問させてもらいますが、外部要因の所で人口減少、2番目の所でライフスタイルの多様化による市民ニーズの変化ということで、人口減少に対して坂井市がどのような対策を打っているのか、あまり詳しくは見ていないんですけど、当然人口の流出、市民が外に出て行かないようにするというのも当然で、その場合は市民のニーズをとらえるということも大切なんですけど、逆に出た方々に戻って来ていただくとか、あるいは全く坂井市に縁がなかった人に住んでもらうとか、そのようなことも入ってくると思いますね。その場合は市民じゃなくて、市外の人のニーズというのにつかむ必要があると思うんですけど、この辺は地方創生の戦略を作った時にやっていらっしゃるんでしょうか。</p>
		(行政経営課長)	<p>本日皆さんお持ちかどうかわかりませんが、前回の資料でお渡ししました坂井市人口ビジョンというパンフレットがあります。この中に人口減少問題の対応、方向性ということで、3、4ページに政策パッケージということで書かれています。このような形で目標を総合戦略に掲げまして、こういったビジョンの中でやっているということで。詳しい中身は例えばシティセールスなど取り組んでいるものもありますし、これからというものもございます。会長のご質問の答えにはなっていないかもしれませんが、こういった取り組みをしているということでご参考にしていただければと思います。</p>
		(井上会長)	<p>ちなみにこれを策定されたときに、アンケート調査はやってらっしゃるんですか。</p>
		(行政経営課長)	<p>やっています。これについて、詳しい資料等を次回用意いたしましょうか。</p>
		(井上会長)	<p>そこまでは結構です。ありがとうございました。</p> <p>では、皆さんいかがでしょうか。</p> <p>それでは、もう一つ私からよろしいですか。</p> <p>せっかく行政経営課さんとうが事務局をしているのに、なぜ行政運営システムなのかというのが気になっているんですけど、やはり今の世の中、管理から経営へという流れで、経営という言葉も大事なのかなと思うんですが、運営という言葉になったのは何かわけがあるんでしょうか。</p>
		(行政経営課参事)	<p>事務局で案を作っていく中で、非常に小さい話で申し訳ないんですが、行政経営課の行政経営という言葉を使うということに引け目があったというか、ちょっと遠慮したところなんです。考え方としては先生のおっしゃるように、管理運営から経営へという流れというのがありますので、項目としての言葉の使い方としては経営という言葉を使うべきなのかなと、改めて認識はしております。</p>
		(井上会長)	<p>まあ、課の名前と一致するのもよくないのかなという思いもあったんですけど、経営的な発想が当然入っていますということでよろしいですね。</p>
		(行政経営課参事)	<p>マネジメントという言葉が使われている自治体も多いと思いますが、カタカナ文字というのはどうかということもありまして、こういう形になってしまいました。</p>
		(井上会長)	<p>皆様からはいかがですか。</p>

II 会議	2. 第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について	(委員)	必要な対応の所の①番の所に書いてある、地域間競争に勝ち抜くという言葉があるんですけど、以前予算とかが潤沢にあったころはしっかりと予算を自分の所の市町で確保して、豊かなまちを作っていこうという意味で地域間競争に勝ち抜くという言葉がいろいろな所で使われていたように記憶しているんですけども、今は予算は国にしても県、市町にしても減ることはやむを得ないという中で、そうすると地域間競争に勝ち抜くというよりは、一つの市町だけで勝ち抜くんじゃなくて、隣接する市町と連携をして、例えば極端な話嶺北全体とか、福井から北の方とかそういう所でこういうような政策をやっていきたいと思いますとか、そういうアイデアも必要なのではないかと思うんですけど。
		(井上会長)	競争の相手を間違えたらまずいということですね。
		(総務部長)	今ここで言う地域間競争は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、それぞれ自治体が特色を生かして人口減少に立ち向かっていかなければいけないでしょうということです。それぞれの自治体がそれぞれ独自のいろいろな考え方、それから戦略を出して、よその自治体よりも人口が減らないようにしていこうというのがあってここに書かせていただいているんですけども、今委員さんがおっしゃられたように、その中には地域間の連携とか、そういったものも含めて行かないと、なかなか坂井市だけの戦略だけでは難しいというものも含んでいる中で、現在考えさせていただいております。 ここに書いてある言葉が坂井市だけのことのように見えてしまうということはあるのかなと思いますので、ちょっと考えさせていただきます。
		(副市長)	今広域的なという話も出ましたが、特に観光ですね。地域を活性化するためには、人を呼ぶということが非常に重要なんです。そんな中で、福井坂井広域圏もありますけど、石川県の加賀市とあわら、坂井市と永平寺と勝山でインバウンド推進の機構を最近立ち上げています。外国に対してなかなか1市町でやろうと思うと難しいですし、観光地も点在しているということであればルートを作って人を呼び込むということで、広域的な連携は重要な要素になります。 坂井市としての地域間競争ということになれば、坂井市の知名度を上げなければいけないということで、シティセールスなどによって対外的に坂井市を認識していただきたいということでやってきています。 先週には東京の品川戸越銀座に坂井市のアンテナショップを設置して、坂井市の物産のPRをはじめています。今後も外部への情報発信を坂井市の大きな目玉事業としてやっていきたいと思っております。 また、地域間競争に勝ち抜くためには職員の資質向上も非常に重要な要素になるということで、その辺もさらに取り組んでいきたいと考えております。
		(松井委員)	今後の方向性の2番目の、多様な主体との協働による地域経営、市民との協働体制の強化というのがありますけど、例えばどんな協働になるのか教えてください。体制の作り方とか。
		(井上会長)	具体的な話は次の資料になりますけど、大事な所なので、先に答えていただけますか。
		(行政経営課参事)	次の資料に例として具体的な取り組みはあるんですけど、今回の会議資料の中では行政改革大綱の柱といいますか、考え方の基本となる現状認識と大きな方向性を示しています。 今、委員さんは市と市民の協働体制の最終形態をどのような形で考えているのかということをお聞きしたいと思いますけど、その部分については次の実施計画でということになります。大綱という憲法的なものを作って、それを基本として、市として5年の間に何に取り組むのかという実施計画を作るんですけども、その中で5年間の到達目標として体制がどこまでという設定をさせていただくことになるかと思っておりますので、今の時点ではお答えできないということで、申し訳ありません。
		(委員)	1番の人口減少という所で、確か鯖江市は唯一増加している市だったと思うんですね。なぜ今こういう人口減少という中で鯖江市だけが福井県の中で増加していったか、またこんなことも坂井市の人口減少を止めるヒントになるのかなとも思ったもので、もしご存知でしたら教えていただきたいと思うんですけど。

II 会議	2. 第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について	(総務部長)	<p>なかなかこれだからという明確なものがあるわけではないんですが、坂井市も同じなんですけど福井市の近郊にあるということが大きく一つあると思うんです。</p> <p>それから、鯖江市はもともと地場産業が盛んなところでありまして、そのPRを上手にやられていて、鯖江市から出て行かないようにということもあるんですが、眼鏡などの地場産業とかそういう所に人を取り込んだり、IT関係も相当進んでやられている、坂井市も負けないようにやっているつもりなんですけど、鯖江市は相当先駆的にやられているので、それらのことをミックスしている中で人口が増加しているということなのかなと思います。</p> <p>坂井市も、福井市に近いということも含めて様々な取り組みをやらせていただいているんで、減ってはいるんですけど減りは少ないという状況です。ただし、もっと鯖江市のどういう所が良くて、どういうやり方をされているのかということは、研究していかなければと思っています。</p>
		(井上会長)	<p>私、実は鯖江市の総合戦略に関わってまして。まあ今ご説明いただいたようなことなんですけど、正直、いつ減るかどキドキしているという状況で、増加しているという結果が出ているとは言え、その原因というのは正直な所、突き詰めて考えるとやはりわからないという部分もかなりあるんですね。</p> <p>ですので、結果として出ているその大きな理由は今おっしゃっていただいたような地理的条件とか、産業の部分ですね、これは非常に大きいかなと思っています。</p> <p>地方が生きる六つのモデルというのがある本に出ているんですけど、その中の一つに地域の産業を振興するとあって、鯖江はそのモデルの実例として紹介されているぐらいですから、おそらく坂井市も産業の中身は別のものかもしれませんが、同じ様なやり方というのは非常に有効なのではないかという風に思います。なにしろ福井市を挟んで両隣ですから。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
		(委員)	<p>鯖江って一時期、住民目線の部課名を付けましたよね。坂井市みたいに堅苦しい、高齢福祉課とか漢字のばっかりじゃなくて、いかにも何々がしたかったらそこへ行けばわかるというような課の名前を付けて、市役所が住民の方を向いて仕事をしているんですよという戦略を立てたということがあったと思うんです。これも一つの施策だと思うんですけど。</p> <p>また、ふるさと納税にしても今の人口減少にしてもですけど、地域間が競争したり人口取り合ったりしていたら、坂井市は絶対これに勝てないと思うんです。やはり、坂井市の中でどうやって人口を増やしていくかということ、外部から人口を取った分結局外部に流れてしまうのでは意味がないので、市や行政機関なりが人口や税金を取り合ったりこんなばかばかしいことは正直なところやめてほしい。中でどうやったら人が増えていくだろうと、そのためには、坂井市って全行的に見ても住みやすいと、じゃあ住みやすいまちがなぜ人口が増えないんですか。住みたくないからですよ。住みやすいまちじゃなくて、人が住みたくなるまちって何かという目線で一度議論をしないと、人は増えてこないと思うんです。</p> <p>私も営業をしていましたから転勤族で、大阪や東京いろんな所に住みましたけど、そこへ行くとそこがいいなと思うんですけど、最終的にこっちに帰ってきた。これは僕の理由ですけど、やはりこっちに竹馬の友もいれば親兄弟もいるということでこっちにいますけど、いろんな土地にいろんな魅力があって、その魅力を発信して行ってそこで人口なり財源なりを作っていくということを本格的に考えて行かないと、じゃ福井と石川と、金沢と競争して勝てるのかなと。僕はおそらく勝てないと思う、という怒られてしまいますけど。</p> <p>今丸岡の駅で働かせていただいているんですけど、最近土日に金沢行の1,100円の切符が10枚売れると、福井行の240円の切符は3枚くらいしか売れません。それくらい現状は金沢の方に目線が行ってしまっている。だから地域間であまり競争するんじゃないかと、と私自身は思うんです。坂井市の中に魅力はたくさんあると思うので、それを発信して行ってその中で人口が増える方法というのを考えていくべきじゃないかなと思うんです。</p>

II 会議	2. 第3次行政改革大綱改革推進にあたっての課題整理について	(委員)	<p>行財政改革ということで審議会とかでお話を聞いたりするときに、大体まとめられるのは総論で賛成なんだけど各論になると反対が出て、公共施設の縮小というか統廃合ができないというのを聞いていたんですけど、これすごく難しいですよ。私たちのまちにあるコミセンが無くなるという絶対反対が出てくるという所なんですけど、坂井市の中でいったらこんなにたくさんいないよということがあるって聞いていたんですけども、それを勇気をもってやれる、やるんですよ。</p> <p>というのは、人口を増やすと言ったって絶対に増えるというのは不可能なんですよ。今現在から20歳になる子どもの数を計算すると。そうすると縮小するというか、こじんまりとした社会をつくるということを考えていく方が、継続可能な社会じゃないかと思うんです。そういう中で、コミセンは多分一つも縮小、統廃合していないような気がするんです。住民の意識とかあってなかなか難しいんでしょうけど。</p> <p>私たちも考えなければいけないんですけど、それってできるんですか。</p>
		(副市長)	<p>平成24年に作った公共施設マネジメント白書でコミセンとかいろいろな施設の将来の方向性について、旧町からいろいろな施設があって、正直あまり活用されていない施設もございます。これらを将来的に廃止したり、地域へ移管したり、そういう方向性を示しているわけでございます。</p> <p>現在それに向かって努力はしています。ただ、すぐ廃止できるかというそれは難しいんです。将来的に老朽化して、耐震とかの問題で使えなくなったところで取り壊したり廃止したりということ、それに向かって方向性を出したということです。</p> <p>そうしないと、現在ある施設をすべて維持していくというのは難しいんです。人口も減ってきますし。学校や幼稚園についても、幼稚園を廃止してきていますし、いろんな面で努力はしておりますけれども、コミセンについてはそれぞれまちづくり協議会があるわけですし、廃止する方向性は出しておりませんが、他の施設については民営化や移管、廃止等の方向性を出しております。公共施設マネジメントの方向性も今後多少は見直す必要はあると思いますが、努力していきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。</p> <p>特に、三国地区で市民センターを整備しているんですけど、その中では社会福祉センターと庁舎と三国の公民館を統合して市民センターを立てるということで、これは将来的に維持管理費を減らす大きな効果があると思っております。</p>
		(井上会長)	他にいかがでしょうか。
		(委員)	公共施設のことを取り上げていましたので発言させていただくんですが、今坂井市の本庁舎の整備も動き出しているんですね。それが、しっかりと目を通してはいないんですが、この資料では謳っていないように思うんですけど、やはり一番大きなことになるかと思っておりますので、取り上げるべきではないかと思うんですが。
		(行政経営課参事)	次の資料になるんですが、資料3の5ページに、後程またご説明させていただくんですが、効率的な組織体制の確立の所で、第3次実施計画における施策の例ということで、庁舎整備に併せた抜本的な組織改革ということで例示として上げさせていただいているんですけども、この部分というのは事務局の方で他の自治体の事例等を坂井市に当てはめて、事務局として考えるものを例示しているものです。この部分というのは、基本項目と重点項目が確定した時点で、それぞれの所管課において、自分の所でどのような改革ができるかということをお自分たちで考えて入れていくところまで、そういう意味での現在の記載ですので、ご理解いただきたいと思っております。
		(副市長)	32年までに整備するということですので、それまでに組織も改革することです。
		(井上会長)	だんだん次の資料の方に議論が進んで参りましたが、資料2に関して、他に何かありましたらお願いします。
		(井上会長)	特になければ、3の方に進めて行きたいと思っております。また2に戻ってご質問いただいても結構ですので、続きまして第3ですね、第3次行政改革大綱基本項目の案について、事務局から説明をお願いいたします。
	3. 第3次行政改革大綱基本項目(案)について	(行政経営課参事)	【資料3】第3次行政改革大綱基本項目(案)についてについて説明

II 会議	3. 第3次行政改革大綱基本項目(案)について	(井上会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>いよいよ行政改革の新しい中身ということで、今説明ありましたようにまだ目安の部分がありますので、これから具体的なことは個別に固まってくると思いますが、既に皆さんからもこの部分に関してご質問がありましたように、本文が重要になってくるかと思っておりますので、こういうことを入れたほうがいいんじゃないかとかということがありましたら、ご提案いただければと思います。</p> <p>まず私からすいません。資料2の所では特にニーズという言葉が大分入っていたので、これを重視しているんだろうなと思ったんですが、資料3になったとたんにニーズという言葉が一つもなくなってしまっているんですよ。</p> <p>やっぱり、満足度を高めるためには、市民が何を求めているかを行政がしっかり把握すると同時に、市民の活動を円滑に支援するように努める必要もあろうかと思うんですね。そこら辺を何か。</p> <p>もちろん評価システムという中にはニーズの把握も入っていると思うんですけど、そのところをもう少し表に出した方がいいんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。</p>
		(行政経営課参事)	<p>今会長がおっしゃられたように、言葉的に漏れているところがあるので、おそらくニーズの把握という言葉が入ってくるとなると、基本項目1番の1、マネジメント志向の行政運営の所で、市民のニーズを的確に把握して取り組んで行くということで。</p> <p>それと基本項目2番の1、市民とのコミュニケーションの充実の部分でも、いやこれはちよつと違うかもしれません。やはり1番の方ですね。マネジメントサイクルの中に、市民ニーズの把握に基づくということが入ってくるのかと思います。</p>
		(井上会長)	<p>それでは皆様に意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
		(委員)	<p>2の市民との協働体制の強化、特に3番の市民活動の推進の所で、いろいろな団体が坂井市の中にもあると思うんですけど、今私はPTAの代表として出席させていただいておりますけれども、実は子どもを取り巻く団体だけでもいろいろな団体があって、本当にこれだけの数の団体が必要で、それだけの活動資金というか、そういうものも出ていると。特に今年なんかは10周年ということで、各団体が10周年記念の行事をやるということで、本当にこれってもっとスリム化というか、効率化ができないのかなと思うんですね。</p> <p>実際PTAにしても、子ども会とか青少年育成とかありますけど、その上に県とかがあるもので難しい話だとは思いますが、それでも同じような目的を持っているのに、アプローチがなんとなくくばらばらで、本来もっと、がつつと一か所かどうか、そういうものを強くやればもっといろいろなことができるのかなとすごく思っているんですね。</p> <p>そういう意味で、組織とか団体の効率化スリム化、そういうものもぜひ考えて行ってもらいたいという思いはあります。</p>
		(井上会長)	<p>今ご提案がありましたけれども、いかがでしょう。</p>
		(総務部長)	<p>おっしゃる通り、いろいろな団体で同じような活動をしているようなことがあるということは私たちも感じていますが、市民活動をしていく上でいろいろな立ち上がり方をされていられるのだろうと思うので、そのところで市が方向性を出すというのはなかなか難しいかなという風には感じます。</p> <p>ただ、本来行政がやらなければいけないような活動をしておられる場合もあるかと思っております。現在補助金の合理化の作業もしておりますので、その中で補助金を交付している団体、全く自主的に活動しておられる団体を実際に並べてみて、その辺も見極めながらということで。</p> <p>なかなか行政のかかわり方が難しいところかなとは思いますが、研究させていただきます。</p>
		(井上会長)	<p>市民活動というのは市民の自主性が大事ですので、介入的なところはなかなか難しいですけど、やはり行政はコーディネーターでもあるわけですから、お互いの希望がかみ合わない場合は行政がそこうまく入ってあげて仲立ちしてあげるということではできると思うので、そういう所に行政の役割というのはあると思います。</p>

II 会議	3. 第3次行政改革大綱基本項目(案)について	(委員)	<p>特に、一つに呼ばれると必ずあちらこちらに呼ばれてってなるんですね。なおさら市民とするとそこに参加しづらくなる。結局それだけで首が回らなくなっている状態というのがあるので、私の所なんかでも、ここだけならできるんだけれどもこれとこれとこれがついてくるのでできないと。そういうことで本来ならできる活動ができないということが多いと思うんですね。</p> <p>だからそういうのを、何とかうまくコントロールというか、アドバイザー的な形でかかわっていただくことで、改革というんでしょうか、そういうものもしていただけたらという所です。</p>
		(副市長)	<p>いま一つの例として、各地区にいろいろな団体があるんですね。坂井市に23のまちづくり協議会ができた中で、それにいろいろな団体も参加して活動をやっていただきたいと。上部組織との関係とか発足の経緯とか難しい問題はあるんですが、理想としてはまちづくり協議会の組織の中に入って、一本化してやっていただいた方がということです。人材的にも役員がいろんな団体に重なっていて、なかなか大変ですので、まちづくり協議会が中心となって地域の団体の簡素化なり効率化とかを進めていただければ、活動する人にとってもいいことなのではないかと思っておりますので、市としても今後進めて行きたいと思っております。</p>
		(井上会長)	<p>他にいかがでしょうか。</p> <p>今日は、具体的な中身は目安ということですので、これから入ってくるものを見て、改めて皆様からご意見をいただくことになるかと思っております。それは次回になるんですかね。</p>
		(行政経営課参事)	<p>できましたら、基本項目と重点項目が、これでよろしいですかということにつきまして、例えば今日ご意見をいただきまして、次回で確認していただく形で次回までには確定させていただいて、その後に具体的な取組みに入っていきたいと考えています。</p>
		(井上会長)	<p>今ご説明ありましたように、具体的なところはこれから各課から上がってくると思っておりますけれども、それをどこに当てはめていくのかというのはこの重点項目の区分けに沿って入れていくのかと思っておりますので、重点項目の分け方がこれでいいかということに関して、皆様から合意をいただくということになろうかと思っております。</p> <p>それで、4つの基本項目は先ほどの資料2にも出てきたとおりでありますけれども、次の重点項目ですね、それぞれ3つないし2つの項目に分けられております。これについては文言を一字一句も修正しませんというわけではないので、おおよその区分けとしてこれで良ければ、ご了解をいただきたいと存じます。</p> <p>もし何かご意見があれば、おっしゃっていただければと思いますが、ニーズという言葉を中心項目を含めて入れるかということについては、検討をお願いします。</p>
		(行政経営課参事)	<p>説明の中で入れさせていただく形になるかと思っております。</p>
		(井上会長)	<p>何かございますでしょうか。</p>
		(委員)	<p>3番の2番の長期的と、先程の持続可能とかというのものもあるんですけど、財源の所で長期的とか持続可能とかすごく難しいというか、可能なのかなと。この辺が重そうだなと。必要なことだとは思いますが、何か見えそうなものはあるのですか。</p>
		(井上会長)	<p>これは多分一時的なということではなくて、恒久的に確保ができる財源をということだと思うんですが、何か具体的にこういう財源を考えているものは何かありますか。</p> <p>もちろん、新しい税金を増やすということではないと思うんですけど。</p>
		(委員)	<p>やはり目標を立てるなら、基本的にやらなきゃいけない、やるための目標なので、そういう意味では長期的な財源を確保するんだよということなら長期的な財源を確保するための何かをやらなければいけないので、あいまいになっちゃうのなら、もうちょっとぬるくなるような言葉の方がと思います。</p>
		(井上会長)	<p>具体策のところをちょっと見ると、企業誘致というのがありますから、おそらく企業が入って来ると固定資産税なり職員の方の住民税が入って来たりと、続く限り入って来るという意味では、長期的という見方はできると思うんですが。</p>

II 会議	3. 第3次行政改革大綱基本項目(案)について	(行政経営課参事)	考え方としては、長期と短期という中で短期的な財源といいますと例えば施設建設の補助金を取って来たりということがありますが、そうではなくて長期的なものという、この例にもありますように、例えば企業が来れば、企業がある間は税収が得られる。それほど大きなものでなくても、例えば市税の収納率を上げるようなシステムづくり、組織作りによって収納率を1%上げることができればそれは長期的・安定的な財源になるという考え方、また受益者負担につきましても、適正化のルール作りをしまして、施設を運営する中で恒常的にそういう収入を得られれば長期的な財源の確保ということになるかと思っておりますので、そういうった考え方でこの項目が挙げられているということでご理解いただければと思います。
		(井上会長)	他にいかがでしょうか。
		(委員)	これは、市民に向けて発行されるものなんですよ。難しい表現をされていると、多分なかなか見ないと思うんですね。こういう概要版とかは手に取って見やすいと思うんですけど、できるだけわかりやすい言葉で入れていただけたらありがたいと思います。
		(井上会長)	皆さん読んでみていかがですか。やはりわかりにくいところがありますか。
		(委員)	そうですね。なかなか慣れない言葉ですので、関心を持たなければならぬことだということは分かるんですけど、理解できない言葉が羅列されるとお手上げになってしまう。そういうものなので仕方ないんですけど。ご苦労かもしれませんが、分かりやすい表現をしていただけたらありがたいと思います。
		(行政経営課参事)	行政改革大綱に併せて、毎回概要版をホームページとかの公表用に作らせていただいております。どうしても大綱本体の方はあまり平易な言葉を使うと中身が盛り込めないところがありますので、こちらの概要版の方で市民の方に向けてわかりやすいものを示させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。
		(井上会長)	当然、受益者負担とか市民にも負担という部分、耳の痛い話もあるわけですから、そこを真剣に考えてもらうために行革の大綱をきちんと理解してもらうというわけですよ。
		(委員)	今日のこれは4項目でいいと思うんですけど。まだ第2次が28年までありますので最終の評価はできていないんでしょうから。ただ、さっきの資料の16ページを見ますと、事務の効率化という回答が一番多くありまして、こういう部分を重点項目の1、2に織り込んでいただいて、コンピューターや機械化で少しでも効率化するとか、大きな部分なのでこの辺を入れたらどうかと思うんです。どちらかという職員意識改革とか人事評価とか、職員にきつく当たる方が強いので、仕事や事務の効率化というほうを考えてもらった方が感じたんですけど。
		(行政経営課参事)	今おっしゃられたことにつきましては、内部からの意見もありますので、事務の効率化という面につきまして、今回の項目で言いますと例えば2ページのマネジメント志向の行政運営の中で、内部管理事務の効率化・簡素化に資する事務改善の取組みということで挙がっておりますし、また5ページの効率的な組織体制の確立でも、効果的効率的な人員配置とありまして、項目の中に盛り込んではいらっしゃるんですが、それを例えば一つの項目として表出したほうがあるのではないかということになりますと、確かにご意見を受けて検討すべきことですので、全体的な組み立てのことはありますが、検討させていただきたいと思っております。もう少しこの部分が表に出るような形で考えたいと思っております。
		(井上会長)	これを職員の方が読んで、まだ頑張れというのかと思われたら、ちょっとこちらの本意ではないということですので、そこら辺の表現を考えてもらえたらと思います。
(行政経営課参事)	行政経営課の行革の実施項目の中では、事務の効率化とか軽減につながる内容を入れて行きたいと考えています。		

II 会議	3. 第3次行政改革大綱基本項目(案)について	(井上会長)	他にいかがでしょうか。 それでは、今いくつかご意見をいただきましたので、このご意見をできるだけ反映していただくという方向で、もう一度骨組みを作っていただきたいと思います。それを踏まえて、具体的な取り組みを割り振っていくという形で、次回また審議をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
	4. その他	(井上会長)	それでは、本日の議題は以上で終わりなのですが、その他ということで何か、皆様からご意見ご質問等ございますでしょうか。
		(委員)	発信力という意味で、JRの駅名は変えられないんですか。そんなに難しいことなんですかね。金津は芦原に変えられたんですから。 せっかくあそこにあるのに、位置的には丸岡じゃないんですよ。あそこに丸岡城があると思って降りる人がたくさんいるんだけれども、行くすべがほとんどない、あきらめて帰ってしまう人も結構いるんですね。 難しいんですかね。駅名が変わるということは全国版で変わるということですから、すごく対外的に発信力があると思うし、人口って急には増えないけど、増やせるのは流入してくる人口なんですよ。坂井市に流入してくる人口が増えれば税収も増えるはずなので、そこらをもっと発信していった方がいいんじゃないかと思うんです。 えち鉄は西長田ゆりの里駅とかって変えてっているけれども県内だけです。そうではなくて全国的に発信していこうと思うと、春江と丸岡の2つの駅名を何かもう少し地域をアピールできるようなということで、難しい問題かもしれませんけど。
		(委員)	北陸新幹線が平成34年度に敦賀まで開通するとすれば、今現在のJR線は第3セクター化しなければいけないんで、そういったタイミングを狙って駅名を変えるとかそういうことは十分可能なんじゃないかなと思うんですけど。 だから、今からそういった仕掛けをしていくというのは必要かと思うんです。県も並行在来線を検討するようなグループがあると思うので、その辺に何か情報をもらうというのはあるのかなと。
		(総務部長)	えち鉄の変更の時にJRのことも考えたんですが、えち鉄の方は全体的にアナログの部分が多いので変えやすいんですけど、JRの方は波及効果は大きいと思うんですが、その分経費がかさんでしまうようなことを聞きました。 今おっしゃったように、並行在来線への移行の時というのは確かに一つのチャンスかもしれないので、情報を交換していきたいと思います。
		(井上会長)	他にはいかがでしょうか。
		(委員)	今年の3月に、丸岡城天守の国宝化に向けての市民の会が設立されて、先程副市長も観光、インバウンドに向けての取組みをされているということですけど、丸岡城を国宝にするという話はこの中には出てこないんでしょうか。そういうことは違うステージになるんですかね。
		(総務部長)	間接的には観光客の方が増えたりとかに繋がってくる部分はあるのかなと思うんですが、担当課の方から上がって来るものの中に出てくるかもかもしれません。直接的に行政改革との関連するものではないと思うんですけど。
		(井上会長)	そういう政策に関しては、そういう政策を扱う計画が別にございますので、その中で直接取り上げる場合はあると思います。 他にいかがでしょうか。 それでは、委員の皆さんからはご意見ないようですので、事務局の方からその他ということでお願いします。
		(行政経営課参事)	事務局から、会議の今後の日程でございますけれども、当初お示したスケジュールからは延び延びとなっているところではございますが、9月中の開催は困難な状況でありまして、次回は10月のできるだけ早い時期に調整させていただきたいと考えています。確定次第お知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

Ⅱ 会議	4. その他	(井上会長)	<p>またしばらく時間が空きますけれども、その分事務局の方で練っていたいて、案を出していただければと思います。よろしくお願いします。</p> <p>それでは、以上で本日の審議を終了させていただきます。円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返しいたします。</p>
Ⅲ 閉会	閉会	(行政経営課長)	<p>長時間にわたりまして、ご審議ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>